

「ハナサクモリ大町お披露目会」を終えて

5月26日。ハナサクモリ大町で初めてのイベントを開催しました。「ハナサクモリ大町お披露目会」と題して、椎木剛先生（前衛書家）や伊東敏光先生（広島市立大学芸術学部教授）など16の方がお集まりくださいました。太田川学園の作品を題材として、椎木・伊東両先生のほか、作者本人、制作に携わるスタッフに、アート活動の過去・現在・未来についてお話しいただきました。

椎木先生や伊東先生からは、作者には、写真や動画などの「映像」に取り組んでみてほしい、スタッフには、コロナ禍の今だからこそ、美術に関する制作や鑑賞をするなどの「研修」を受けてもらいたい、展示については、「一人ひとりの作品」を取り上げてみたい、などの提案をいただきました。

展示中の作者を代表して、第4成人部の水ノ上茉優さん本人に作品解説をしていただきました。本人は、人前で話すことで満足できたようですし、来場者も、本人が語ることで、より説得力を感じられたのではないのでしょうか。

皆さんから、「自由に表現されている」、「そばにいるからこそできる展示をしている」と褒めていただきました。このことを基本に、これからも継続していこうと思います。

ハナサクモリ大町では、7月18日から23日まで、「わたしは花」展を開催予定です。「わたしは花」展は、いくつかの事業所が協力して作品展を作り上げるというものです。絵画や書など平面作品だけでなく、陶芸作品なども展示される予定で、最終日にはパフォーマンスも行われます。

令和4年6月4日

太田川学園アート・ディレクター
羽 鳥 智 裕